

第8回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年8月7日（月）午後6時から午後8時
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員：和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、小城委員、富田委員
- 4 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長 第8回自治推進委員会を開催する。

2 議事

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

参考資料1に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

8月4日に開催された若者会議を皆さんで傍聴し、感じたことなどを踏まえ、今後の自治推進委員会で行うことについて伺いたい。

委員 若者会議については、参加者の7割が多摩市民ではなく、あまり多摩市の事を詳しく分かっていないように感じた。若者の意見を聞くことは良いことだと思うが、もし、自治推進委員会と彼ら若者たちと関わって何かを行うとしても、多摩市の課題である地域活動への参加というテーマとどのように関わらせていくのか、難しいと感じた。

委員長 次回の若者会議では、フィールドワークを行い、これまで検討された多摩市の魅力について実際に見てみるようであるが、多摩市外の若者が多摩市の魅力をもっと知りたいから調べてみたいというのが、目的なのかもしれないと感じた。

知らないからこそ、新しい魅力を発見できたり、分かることもあると思う。その部分と自治推進委員会に関わることが出来たら面白いかもしれない。

副委員長 若者会議で「多摩市を何とかしよう」、というよりは、多摩市の観光資源活性化会議のようであると感じた。

コアメンバーや参加メンバーが市外在住か市内在住かで、テーマの内容も変わってくるのだと思う。

委員 多摩市公式ホームページの募集欄に「何か始めたいと思っている人」と書いてあった。傍聴していて、参加目的をしっかりとって参加している人もいたので、もっと積極的にやりたいことをやったら良いと感じた。

副委員長 募集欄にもあったが、「何かをしたい」でも「実際に何をしたら良いかわからない」という人の集まりであるように感じた。若者会議という場で出会って、そして何がやりたかったのかが見つかるかもしれない。そういう理由でもまちづくりにつながる結果として良いと思う。

しかし、「最初からこれがやりたい！」という思いがある人の集まりだとまた内容が違ってくるのだと思う。

委員 会議は、1グループ4人ほどで構成されたグループワークであったが、キーワー

ドとして、ポイント制度の導入、企業や大学と行政の産官学連携、自然アピール、コンパクトシティ等が挙げられていた。

自治推進委員会で挙げられた内容も出ていた。

委員 多摩市でなければできない案があれば、自治推進委員会として関わっても面白いと思う。多摩市でなくても良いアイデアならば、自治推進委員会のテーマの「地域活動にたいする気づきときっかけ」に結びつかないのでないか。

委員長 若者会議の議論を聞いていると、多摩市のことではなく、多摩地域のことをイメージして話をしているように感じた。

全体の参加者が約80名で、そのうち多摩市の参加者が3割ほどなので、25名程度いることになる。その中から子育て中の人、単身、学生など、グループ分けをしてインタビュー等しても良いと思う。多摩市民で多摩市を知っている若者に聞けると良いと思う。

副委員長 行政のイベントに参加するということは、市民参画に対しての意識が高いのだと思う。そういう若者が、市民参画や市民団体についてどう感じているのかを聞くのは面白いと思う。

委員 参加者に聞き取りをするにしても、グループごとに内容を変える必要がある。例えば、学生なら教育関係について、学校や塾事情などを聞く。子育て世代にも教育について聞いたとしても親から見た教育事情など。グループで関心の方向やウェイトが違うと思う。

委員長 前回、若者と50歳代くらいでこれから定年を迎える世代をターゲットにするという案が出たが、50歳代についてはどのような調査が必要か。

委員 50歳代は、どんな調査にしても、回答を得るのが一番難しい世代だと思う。

自分自身、家には寝に帰るだけで、地域活動に参加する意欲は薄かったように思う。だが調査としては、今忙しくて、地域活動に参加をしていない人からの回答が貰えたら、良いと思う。定年後どうするのかが分かると思う。

若者のように聞き取りだと、回答に偏りがでる可能性があるので、無作為抽出によるアンケートができれば良いと思う。

副委員長 地域活動に参加するか。と聞くより、「もし、自分でプロデュースするならどんなことがしたいか。」と聞いたら面白いと思う。また、地域活動にまったく関わっていない人も、関わっている人も両方から意見を聴けたら良い。回答によっては、担い手づくりにもつながるかもしれない。

委員 多摩市内の企業に協力してもらい、多摩市在住の社員に話を聞けたら良いかもしれない。

委員 市民活動団体にも、広報の仕方等を聞いてみたい。本当に参加者や担い手を集めようと思っているのか。

もし、担い手を必要としているが、広報など発信が上手くなくて、市民に知られていないのであれば、手助けができると思う。

参加者を求めている団体の話を良く聞く。それをデータ化して見せていければ、きっかけ作りのアクションにもなるかも知れない。

副委員長 自治会や町会、市民活動団体に、例えば「新しい人を迎えるために何か行ったか」、

「この何年かで実際に募集の活動を行ったか」、「どのような方法で募集を行ったか」、「何か仕組みを変えたか」などを聞く。事実質問を行うことで、団体に対してどんなサポートが必要なのかが見えてくる。

実は、理想だけで実際に行動に移していないというケースが結構出てくる。実態もわかって良いと思う。

質問の項目としては、

- ・この1年間でどんな募集活動をしたか
 - ・1年間の会員の増加率
 - ・1年間の活動回数
 - ・活動や募集に係る広報数（広報誌やWebで）
 - ・若手や担い手のためにどんな工夫をしたか（例えば、役員に若手をいれたか）
- 等、事実質問をしてみると現状がわかると思う。

委員長 聞く項目を絞って、はい、いいえで答えられるような内容にすれば回収率も良くなると思う。

委員 近い将来の担い手だと40～50歳代。もっと長く見ると30歳代も入る。多少は聞く世代を絞る必要がある。

委員 環境系の団体は、30～40歳代が多く、夫婦で参加している人も多い。活動する分野によっても、参加する年齢層が違って来るかもしれない。

委員 多摩市は、ニュータウン地区と既存地区があり、地域によってグループの特色がかなり違うため、それぞれの課題も違う可能性がある。統一的な調査内容で良いかも考えなくてはいけない。

また、長期的な対策が必要だと思う。将来多摩市において、自治会や市民活動等とどのように関わりたいか。20～30年後にどのように変わってほしいかを聞いても良いかもしれない。

委員長 市民が思う地域活動への参加に関する調査と市民活動団体等への調査の結果を比較し、そこから実際にいくつかの市民活動団体に直接聞き取りをしても良いかもしれない。

副委員長 団体のリアリティを聞くのが良いと思う。次世代はいるのか等具体的に聞く。それから、次世代の30～50歳代の市民にとって、各団体がどのように見えているのか、実際の意見を聞いてみると考え方のギャップがわかってくると思う。

委員 アンケートで30～50歳代に聞いてしまうと、若者会議に参加した30歳代にはどんなことを聞いたら良いだろうか。

参加した市民は、すでに地域活動に意識が向いている人たちであるともう。その彼らに、参加して何がわかったのか、これからどんなこと（どんな活動）がしたいと思ったのかを聞いてみると、違う視点からのきっかけが見えてくるかもしれない。

副委員長 今後、活動の担い手になるだろう人たちの声を聞くと、アクティブに活動する若手の層にどのように声掛けをしていけばよいかわかるかもしれないので、聞く価値はかなりあると思う。

彼らが思う、今の市民活動についてメリットもデメリットも出てくると思う。

委員長

調査については、3つの対象に分け行う。

①若者会議に参加した市民の方で子育て中の世代、単身世代、学生のグループにわけ各グループ2名程度に直接インタビュー形式で意見を聞く。

②30～50歳代を対象に無作為抽出でアンケートを行う。

③自治会・町会を含む市民活動団体等に対してアンケートを行う。

調査項目等の具体的な内容については、本日出た意見を基に内容を精査していきたいと思う。

この調査結果から見えてきたことを提言としてまとめていきたい。

3 その他

企画課

第9回自治推進委員会については、調査結果等がまとまった後の11月に行う予定。後日調整の依頼の連絡をする。また、これから実施する調査内容についても連絡する。

4 閉会